

長子保護者 様

唐津市立佐志小学校
校長 原口 毅

平成29年度 第2回学校評価アンケート結果と考察

6月中旬に引き続き、1月下旬に第2回学校評価アンケートのお願いをいたしました。約85%の保護者の方にご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

以下、この2回のアンケートにおける保護者と児童の意識の差を中心とした集計の結果とそれに対する考察をまとめていますので、ぜひ、ご家庭での教育、しつけの改善に生かしていただけたら幸いです。学校でも、このアンケート結果をこれからの学校教育活動の重点化や改善に生かしていきたいと思えます。

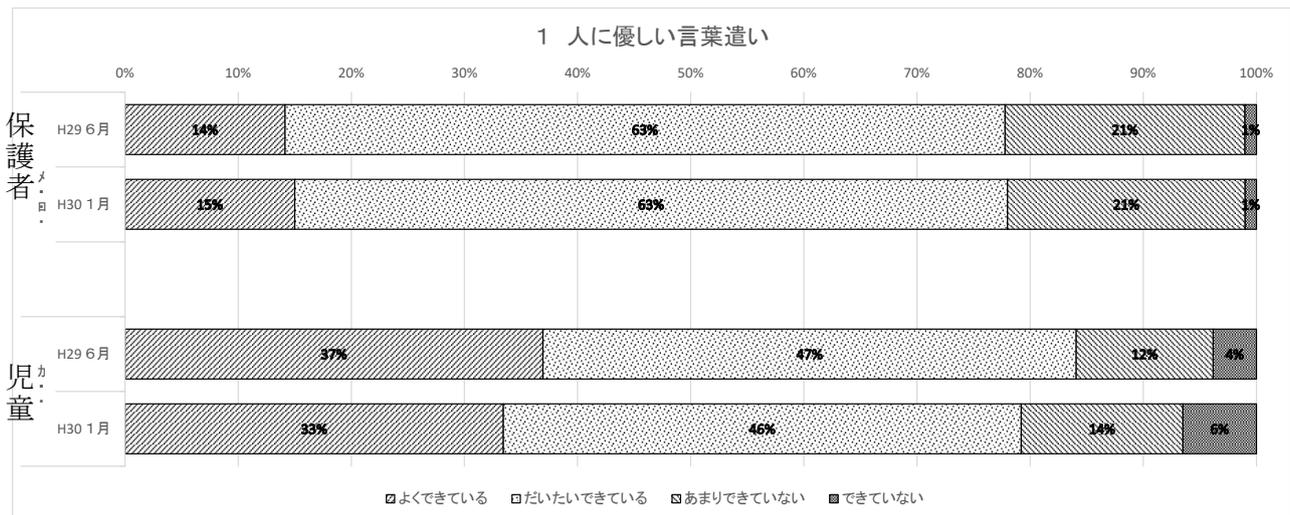
※達成率(%)は、「よくできている」「まあまあできている」を合計した割合です。

1 自分を見つめ他者を理解し、人や社会とつながろうとする子どもを育てます。

① 人権感覚と実践力の向上

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんは、学校の合言葉「さし人」にある「人に優しい言葉づかい」ができていますか。	77%	78%
児童	あなたは、人に優しい言葉づかいができていますか。	84%	79%

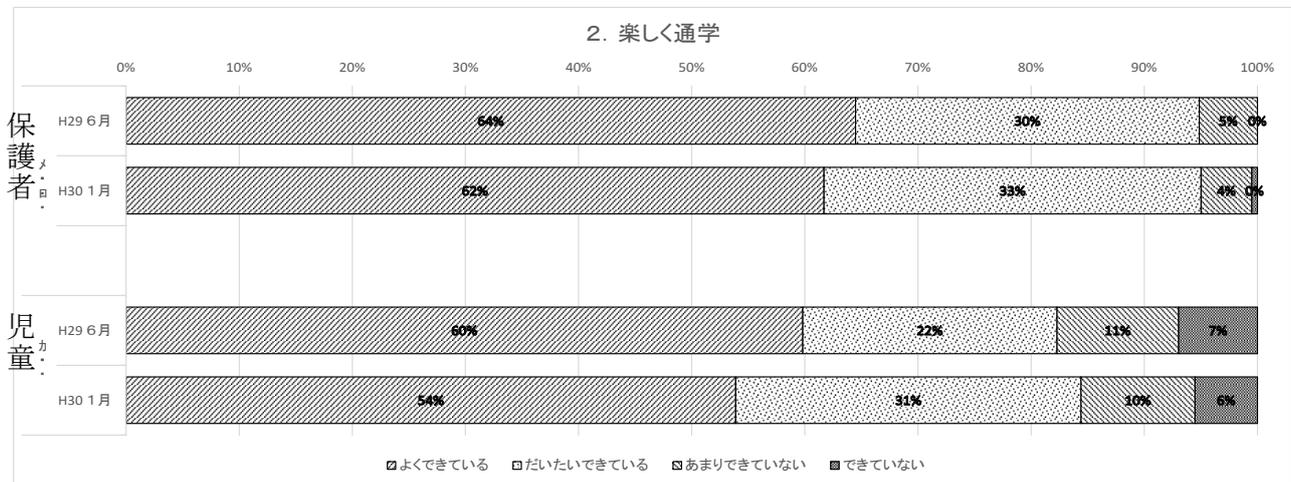


保護者の変化はありません。児童の達成率が5%下がっていることが残念でした。言葉遣いについては、本校児童の課題ととらえ「呼び捨てをしない。」「チクチク言葉をやめ、ぼかぼか言葉を使おう」「自分が言われて嫌な言葉は、友達にも言わない」といった取組を継続していますが、全体的になかなか改善に結びついていません。「言葉の暴力」と言われるように、相手を傷つける言動がいじめの引き金になることもありますから、この課題に対しては継続して本校児童の重点的な課題ととらえ、改善に向けた取組を進めていきたいと思えます。ご家庭でも「よくできている」と回答できるよう、ご尽力ください。

② 不登校傾向にある児童に対する細やかな支援

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんは、楽しく学校に通えていますか。	95%	95%
児童	あなたは、学校に行くことが楽しいですか。	82%	85%



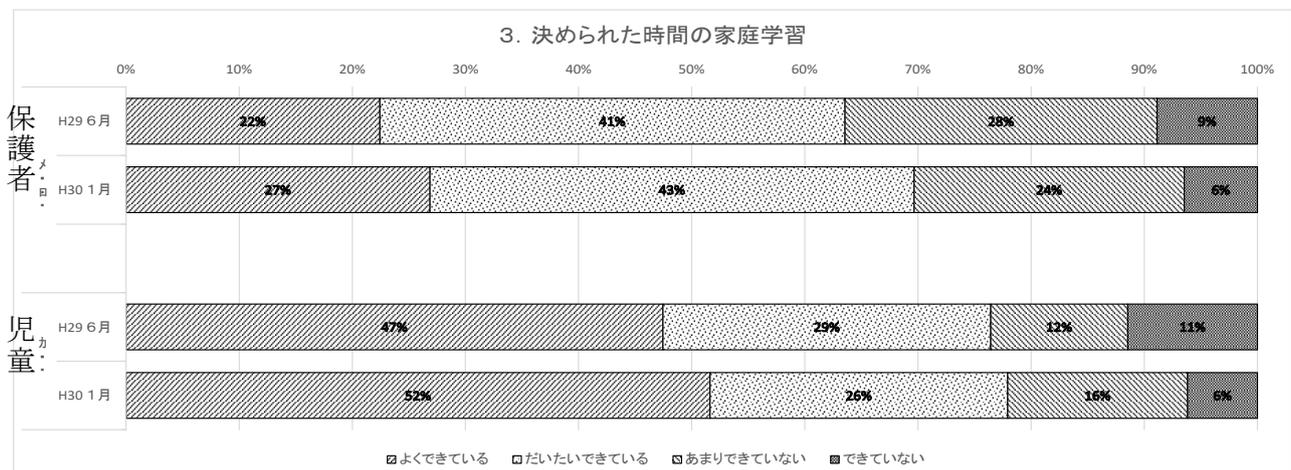
約95%の保護者の方に「わが子は楽しく学校に通えている」と感じてもらっています。それに対して児童の肯定的な思いは10ポイントほど下がります。不登校傾向の児童には担任だけでなく、児童生徒支援教員や養護教諭を中心に級外職員でできるだけの対応をしているところです。学校は集団生活の場ですから、我慢しなくてはならないことや嫌でもやらなければならないこともたくさんあります。しかし「友達と話したり遊んだりできる」「知らなかったことが分かる」「できなかったことができるようになる」といった楽しさにたくさん触れられる場でもあります。そういった喜びを通学の原動力にできる児童に育てたいと思います。

2 家庭学習の習慣がきちんと身につく、自分の考えをきちんと言える子どもを育てます。

③ 学習習慣と学習意欲の向上

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんは、ご家庭で、決められた時間学習できていますか。	63%	70%
児童	あなたは、お家で、決められた時間学習できていますか。	76%	78%



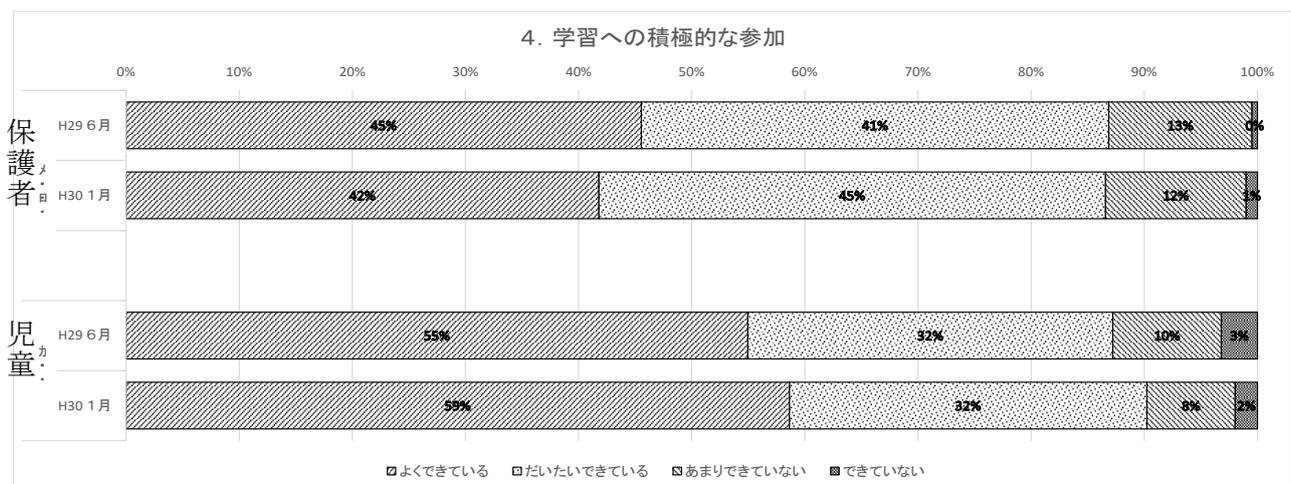
保護者の肯定的な評価が7ポイントも高くなっています。これは家庭で学習に取り組むお子さんの姿が以前より見られるようになったということでしょう。保護者の方の家庭学習に対する理解や働きかけが高まっているとも考えられます。また、児童も若干ではありますが評価が上がっており「家でちゃんと勉強している」という肯定感が高まっていると思われます。ただ、「できていない」という回答も少ない割合ではなく、児童による差が大きいことが伺えます。学習状況調査の結果からも本校児童の家庭学習時間が短いことが課題となっています。家庭学習の時間や取り組み方は家庭しか分かりません。また、低学年20分、中学年40分、高学年60分という最低学習時間は決して長い時間ではありません。この時間が決して長いと感じないような習慣づけを全てのご家庭にお願いしたいと思います。

④ 指導方法の改善

※保護者の質問内容と児童の質問内容が異なりますが、学習への関わりという点で一つにまとめています。

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんの音読を聞いたり、宿題をみたりしていますか。	87%	87%
児童	あなたは、グループやクラスで話し合う学習で考えを言ったり、聞いたりしていますか。	87%	90%



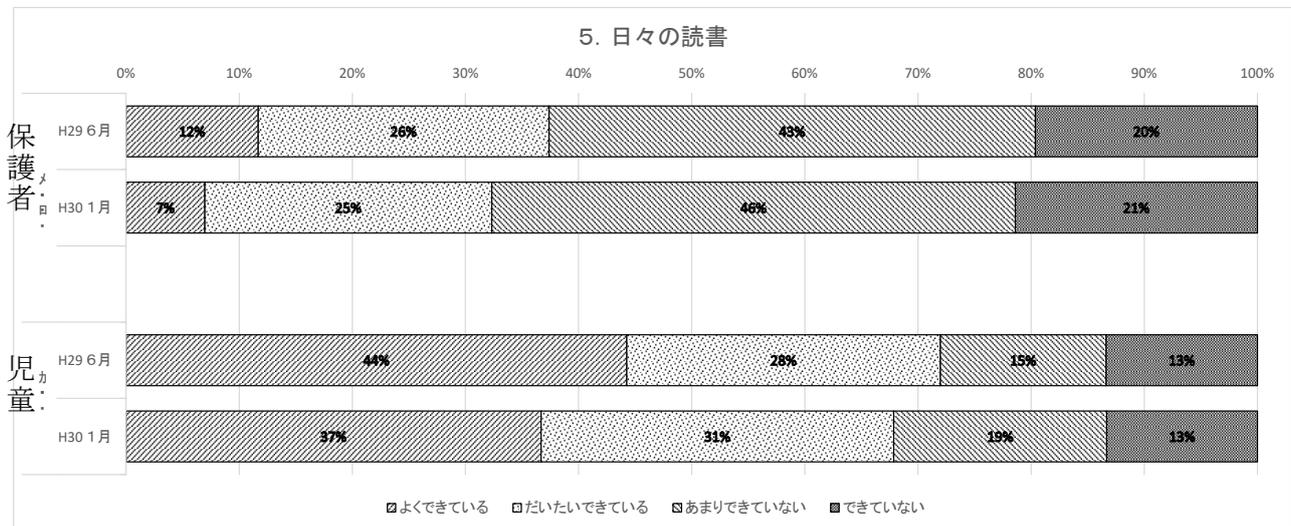
保護者の方の評価はほぼ変わりません。8割強の方がお子さんの宿題に関わっていると答えられています。児童の中には、常に丁寧に一生懸命取り組んでいることが伺えるノートやプリントを提出する子もいますが、全く逆の姿が想像される子もいます。当然、学習の定着に影響してきます。宿題を教えることではなく、宿題の取り組み方をチェックし、ほめたり励ましたりすることが親の役割です。自分の部屋などではなく、食卓など家族のいる場所で宿題に取り組ませるスタイルが効果をあげているそうです。可能であれば、ぜひ取り入れてみてはどうでしょう。

児童への質問は児童相互で話し合っ解決するような場で、積極的に意見を出したり友達の意見に耳を傾けたりしているかという内容です。このような学習スタイルを、本校でも積極的に取り入れ「主体的・対話的な学び」を目指しています。これからますます必要とされるこのような学習への取組が、子どもたちにも浸透してきている結果となりました。

⑤ 読書活動の充実

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんは、家庭でほぼ毎日読書をしていますか。	37%	32%
児童	あなたは、学校や家でほぼ毎日、本を読んでいますか。	72%	68%



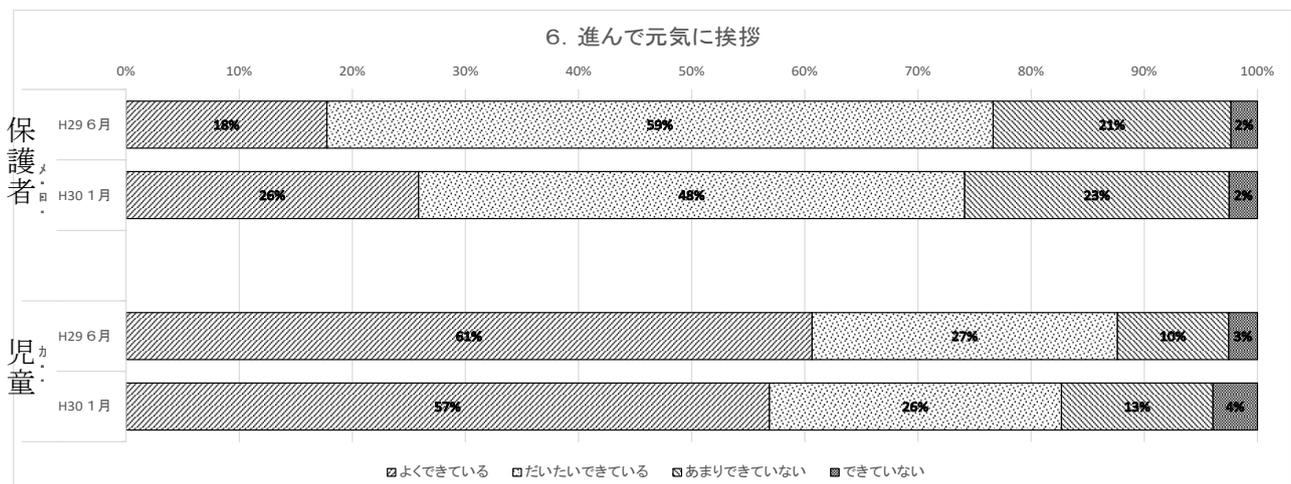
前回とあまり変わらない結果となりました。保護者の回答と児童の回答に大きな差があります。これは「学校で」という条件が児童の質問に入っている影響でしょう。つまり「学校では読んでいるけれども、家庭では読んでいない」ということとなります。もう一つ、目に付くのは保護者、児童ともに「できていない」という回答が多く、この読書習慣においては個人差がかなり大きいということがこの結果から読み取れます。学校がある日に読書の時間を取るの難しいかもしれませんが、宿題をした後などに5分でも読書の時間を作ってはどうでしょう。本は自分のペースで読むことができ、どんな時代になっても「頭と心の栄養」であることは変わりません。

3 明るく安全に学校生活を送り、節度ある行動ができる子どもを育てます。

⑥ あいさつの習慣化

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんは、自分から進んで、元気にあいさつをしていますか。	77%	73%
児童	あなたは、自分から進んで、元気にあいさつをしていますか。	88%	83%

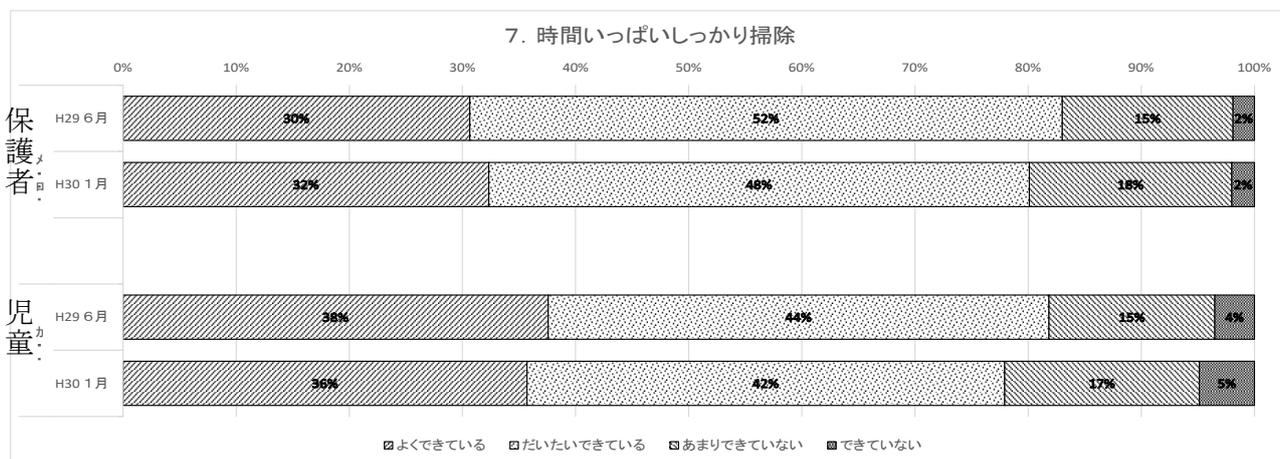


「よくできている」と思っている保護者と児童の意識の差が非常に大きいことがこの項目の特徴です。保護者が家庭や地域での様子を基準としているのに対し、児童は学校での登校時のあいさつを基準にしていることがこの差につながっていると推測されます。保護者、児童ともに若干肯定的な評価が下がっていることが気になります。あいさつは社会で生きていく中での最低限のマナーですし、気持ちのいいあいさつは相手にいい印象を与えます。学校では、あいさつレベル5の設定、朝のあいさつ運動、あいさつ名人の紹介や認定といった継続的な取組を行って「さし人」のさわやかあいさつを推進しています。今後も「できていない」という回答が減っていくように、あいさつの指導に力を入れていきます。

⑦ 掃除の習慣化

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんが、家庭で掃除や片付けをするようにしつけていますか。	82%	80%
児童	あなたは、おしゃべりをせずに時間いっぱいしっかりとそうじをしていますか。	82%	78%



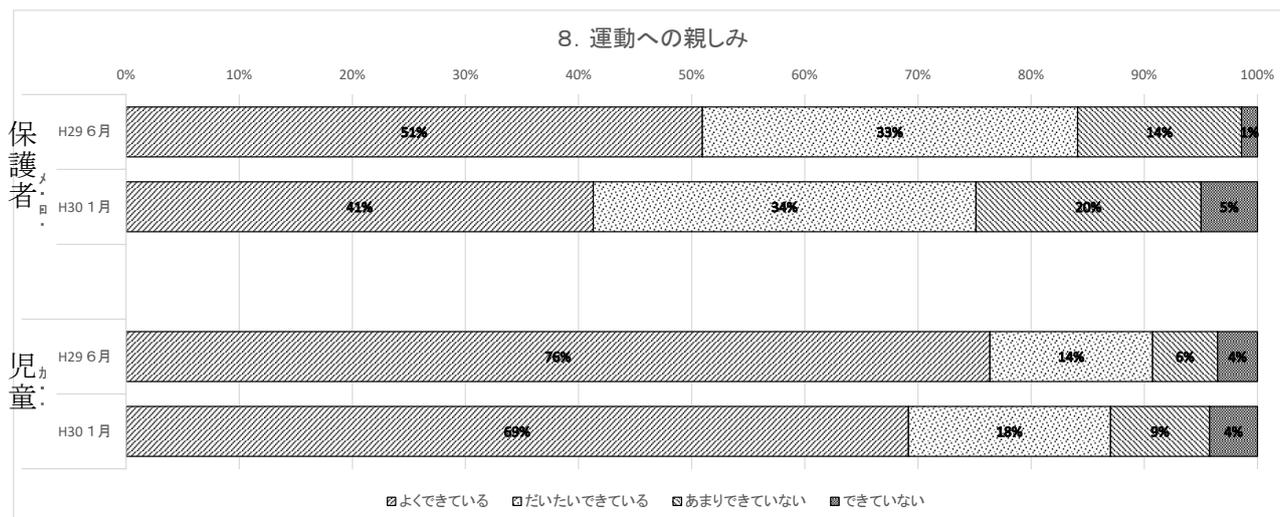
家庭の片付け、学校での掃除という違いはありますが、今回も保護者と児童の結果がかなり似通ったものとなっています。学校の掃除では多くの児童が始まりの時刻を守り、黙々と雑巾がけをしている姿が見られます。無言掃除・「おそうじさしすせそ」の指導掃除の時間の静かな音楽などで、より集中していいいに掃除ができるように指導をしています。今回の結果には反映されませんが、「あまりできていない」「できていない」と答える児童が減るように、これからも全職員で指導を続けていきます。

4 共に関わり合う良さを感じながら、進んで運動に取り組む子どもを育てます。

⑧ 運動習慣の改善や定着化

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんは、外で体を動かすなど、よく運動をしていますか。	84%	75%
児童	あなたは、友だちとっしょに外で遊んだり運動したりできていますか。	90%	87%

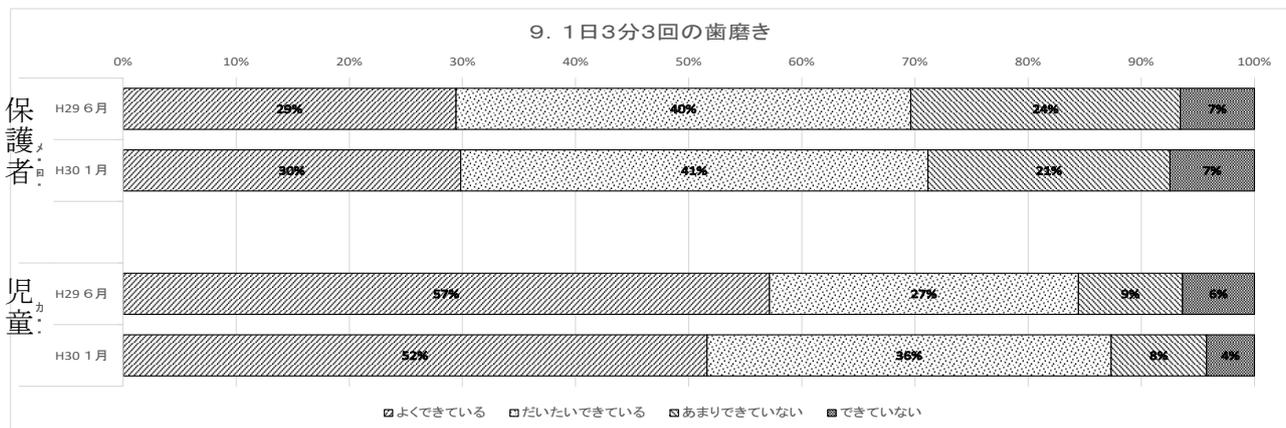


達成率が下がったのは、寒い時期でインフルエンザも流行っていたことが関係していると考えられています。多くの児童が朝、20分休み、昼休みに元気に外で遊んでいます。駅伝やドッジボールに参加する児童も多く、佐志小の児童は体を動かすことが好きな児童が多いと思います。また、今年度は県保健体育科が推進する「スポーツチャレンジ」で6年2組と5年2組が優秀賞や奨励賞を受賞しました。一方で、ほとんど外で遊ばない児童もいますから、個別に声かけをするなどの対策を行っていきます。

⑨ 望ましい生活習慣の形成

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんは、1日3回以上歯磨きをする習慣が身についていますか。	69%	71%
児童	あなたは、歯磨きを少なくとも3分程度、1日3回以上していますか。	84%	88%



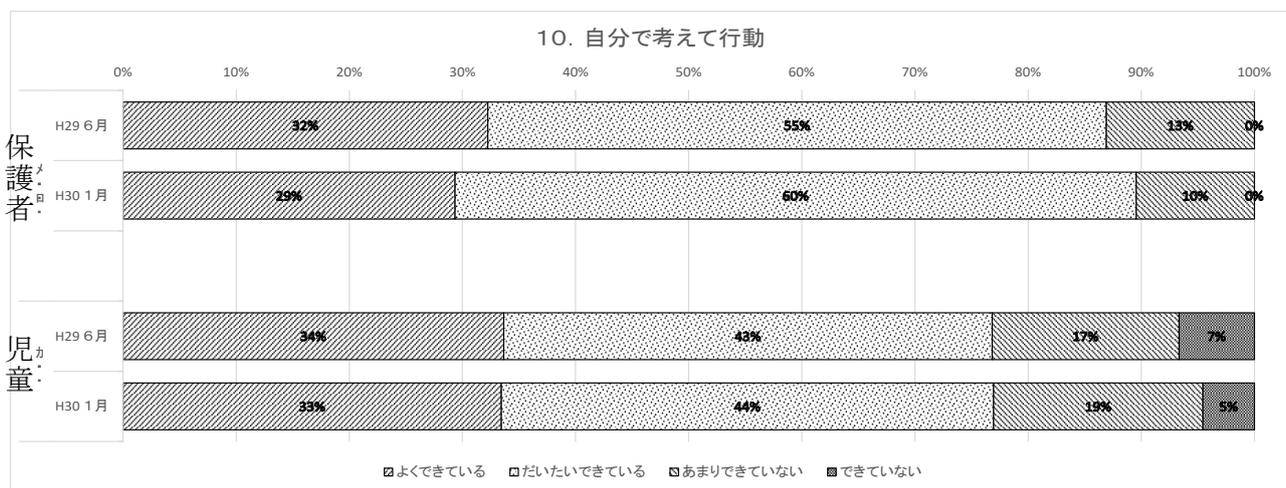
この質問で保護者と児童の達成率にかなりの開きがあるのは疑問です。保護者の方は、朝と夜の2回の歯磨きで評価をしていらっしゃると思いますが、約3割の児童が朝か夜、または両方で歯磨きをしっかりしていないということになります。本校児童の4割以上が虫歯保有者であるというゆゆしき現状から、治療と予防にもっと努力が必要だと捉えています。よろしくお願いします。

5 集団の一員としてよりよい学校にしようと、課題に気づき、解決の方策を考え、実行する子どもを育てます。

⑩ 気づき、考え、行動する学級集団の形成

達成率

対象	質問項目	H29 6月	H30 1月
保護者	お子さんに、自分で考えて行動するようにつけていますか。	87%	90%
児童	あなたは、学校生活をよりよくするためにどうすればいいか考えて行動できていますか。	85%	77%



本校の目指す児童像は「気づき、考え、実行する」子どもです。日々の生活の中ではそういう場面がたくさんあります。親や先生から言われたことをするだけでなく、気づいたことで、どうすればいいか最善策を考え、それを実行できる子どもに育てたいと思います。そのためには、基本として「自分でできることはさせる」ことが大切だと考えます。教育の目的は最終的には「自立」ですから、何でもしてあげたり助けたりするのは愛情ではありません。失敗してもいいから任せてやらせたり、めんどくさがったり逃げたりしようとしても挑戦させたりすることが大切です。